

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名	市立幼稚園・学校訪問事業					教育部	
総合計画の体系	目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育	
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに					指導課
						指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	知・徳・体の調和のとれた幼児・児童生徒を育成するため、市立幼稚園・小中学校を訪問し教職員の指導力の向上を図る。				
内容	茨城県西教育事務所派遣指導主事が計画訪問、要請訪問、随時訪問を行い、幼稚園・小中学校の現状を把握するとともに、教育指導の改善及び充実のために必要な指導及び助言を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	教員・幼児・児童生徒

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	計画訪問・同行訪問・要請訪問・随時訪問	市立幼小中に訪問指導を実施した回数	目標	180	180	200	回	
		実績	179	277				
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	各学校長の各種訪問についての評価	学校教育への効果をA(4点), B(3点), C(2点), D(1点)の4段階で評価したときの平均点	目標	4	4	4	回	
		実績	4	4				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額			
総事業費	35,751	36,018	38,153	38,153	38,153			
事業経費	29,765	29,687	31,822	31,822	31,822			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60			
従事非常勤職員数	0.62	0.77	0.77	0.77	0.77			
概算人件費	5,986	6,331	6,331	6,331	6,331			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	社会情勢を踏まえても十分なニーズがある
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主導による目標実現が図られる
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	他市事例を検討した結果、当市の人口規模では効率がよい	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	計画訪問では、教員の指導の改善工夫について、より一層、助言指導の時間の確保が望まれている。訪問日程等を工夫し、先生方の研修意欲に応える指導助言時間を確保できるようにする。
今後の取組み	学校の要望を事前に聞き取り、内容を吟味し、指導力の向上に向けた効果的な指導助言に努める。また、経験の浅い教員やリーダー教員の育成に資するよう指導内容を充実させていく。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						学力向上対策事業(ALT配置事業)			教育部
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育	指導課	
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに			指導係			

1. 事業の概要(Plan)

目的	小中学校における外国語教育の改善・充実を図るとともに、国際理解教育の充実を図る。				
内容	ALTを配置し、学力の向上を図る。				
種別	自治事務(任意)	主体	外部委託・直営	対象・受益者	児童生徒

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	小中学校ALT等配置事業	小中学校に配置したALT等	目標	11	11	11	人
		実績	11	11			
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	各学校長の事業に対する評価	学校教育への評価をA(4点), B(3点), C(2点), D(1点)で評価したときの平均点	目標	4.0	4.0	4.0	点
		実績	4.0	4.0			
予算科目	区分	款	項	目			
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額		
総事業費	53,150	58,202	58,202	58,202	58,202		
事業経費	40,718	45,862	45,862	45,862	45,862		
特定財源	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20		
従事非常勤職員数	1.44	1.40	1.40	1.40	1.40		
概算人件費	12,432	12,340	12,340	12,340	12,340		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	生きた外国語指導の必要性からALT等配置の必要性は高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主導により目標実現が図られる
	有効性	指標の実績	達成できた	想定どおりのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	比較検討した結果、現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	他市事例を検討した結果、効率がよい	
	事業の方針	継続	発展拡大の必要性がある	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	小学校高学年における外国語の教科化及び中学年における外国語活動の導入により、本物の英語を学ぶ機会としてALT配置のニーズは高い。ALT配置により外国語授業の質を担保し、学力の一層の向上を図る必要がある。派遣のALTについては、1~3年程度で派遣校が変わったり、経験の浅いALTも含まれるため、ALT(市職員)を中核としたALTの指導力向上に向けた取組も必要である。また、教員研修を充実させるため、学校教育指導員等を継続して採用し、研修会を開催したり、定期的に学校に派遣する必要がある。
今後の取組み	「英語教育のまちづくり」を推進するため、児童生徒、教員、市民を対象とした研修会等を企画していく。まず、ALTの協力のもと、インターネットを介した海外との英語交流を計画・実施し、実際の場面で英語を活用する体験を充実させていく。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名	英語検定料補助事業					教育部	
総合計画の体系	目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育	
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに					指導課
						指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	小中学生に英検受験料の補助をすることにより、児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図る。				
内容	公益財団法人日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定(英検)の受験者(小学校5年生~中学校3年生)に対し、予算の範囲内において受験料の半額を補助する。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	児童生徒

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	英語検定補助受験者数	英語検定補助事業を活用して受験した児童生徒数	目標	500	500	500	人	
		実績	621	504				
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	中学3年生の英検3級以上程度の生徒の割合	中学3年生の12月現在、英検3級以上を取得または、3級以上の力を有する生徒の割合	目標	60	60	60	%	
		実績	52.5	42.3				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額			
総事業費	2,536	2,071	2,564	2,564	2,564			
事業経費	1,168	931	1,424	1,424	1,424			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	0.18	0.15	0.15	0.15	0.15			
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
概算人件費	1,368	1,140	1,140	1,140	1,140			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	児童生徒の英語力向上の点から必要性が高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主体の実施により目標実現が図られる
	有効性	指標の実績	達成できた	想定以上の実績である
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できた	
	手段の妥当性	妥当	先進的かつ効率的な手段である	
	事業の方針	継続	発展拡大の必要性がある	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	事業開始から年々、児童生徒の英語力及び学習意欲が向上したが、令和4年度には受験者数が伸びず結果として、成果目標に迫ることができなかった。
今後の取組み	「英語教育のまちづくり」推進の中心となる事業の1つである。授業で身に付けた力を試す機会として非常に有効であるため、発展拡大も視野に入れ継続していく。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						教育支援センター(スクールサポートセンター)運営事業		教育部
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育	指導課
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに					指導係

1. 事業の概要(Plan)

目的	不登校やいじめなど学校だけでは解決しにくい学校教育上の諸問題の解決に向けて支援する。						
内容	教育相談員が、通室支援・来室面談・学校訪問・家庭訪問を通して児童生徒とその保護者の支援をする。						
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	児童生徒・保護者・学校		

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	来室・電話・家庭訪問相談件数	児童生徒及び保護者からの相談延べ件数	目標	1,000	1,000	1,000	件	
		実績	3,622	3,287				
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	相談件数	対応した相談総数	目標	5,000	5,000	5,000	件	
		実績	15,622	16,006				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額			
総事業費	20,666	21,087	20,630	20,630	20,630			
事業経費	416	457	0	0	0			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	1.00	1.05	1.05	1.05	1.05			
従事非常勤職員数	5.50	5.50	5.50	5.50	5.50			
概算人件費	20,250	20,630	20,630	20,630	20,630			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	教育的ニーズ及び相談件数は増える一方である
		対象の適切性	適切	対象者(全児童生徒・保護者)は変更不可
		主体の妥当性	市が推進すべき	教育支援センターの運営主体は市町村教育委員会である
	有効性	指標の実績	達成できた	受け付けた相談のうち解消した事例があった
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	相談件数が増加傾向にあるため
総合評価	費用対効果	効果あり	市内全校の支援にあたることができた	
	手段の妥当性	妥当	本市の取組は先進的な取組である	
	事業の方針	継続	さらに拡充する必要がある	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	不登校やいじめだけでなく、発達障害等の相談が増加傾向にあるとともに、児童生徒、保護者や学校からの教育的ニーズは多岐に渡っていることから、相談員ひとりひとりの負担が大きくなっている。
今後の取組み	地方自治体は、教育機会確保法において、「学校外での学びの場」の拡充を求められており、今後、環境の整備や人材の確保に努めていく必要がある。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						教職員の働き方改革への対応(資料作成・会議等)		教育部
総合計画の体系	目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育	指導課	
SDGs目標	8	働きがいも経済成長も					指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	これまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、その人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにするため				
内容	教職員の働き方改革に向け、推進委員会を設置し、市として取り組むこと、各学校で取り組むことについて話し合い、実践する。				
種別	自治事務(義務あり)	主体	直営	対象・受益者	教職員

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
				目標				
				実績				
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
				目標				
				実績				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額			
総事業費	1,435	1,583	2,854	2,854	2,854			
事業経費	295	443	1,714	1,714	1,714			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15			
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
概算人件費	1,140	1,140	1,140	1,140	1,140			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主体の実施により目標実現が図られる
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性	妥当	自治事務(義務あり)のため	
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	働き方改革の取組が進み時間外在校等時間の状況が改善傾向にある。長時間勤務の一要因となる部活動指導において、令和4年度は部活動指導員の報酬について3人分の予算を確保し、外部の人材の参画を図っているが、なり手がいない。
今後の取組み	市立小中学校において働き方改革を推進することにより、教職員が心身ともに健康に勤務できるようにすることは極めて重要であり、今後も教職員の意識改革の促進と、保護者及び地域への説明・協力依頼などを進めていく必要がある。また、部活動に係る教師の負担を軽減することは喫緊の課題であることから、部活動指導員の一層の配置促進を図る。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						学力向上に関すること						教育部	
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育					指導課	
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに									指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	市立各小中学校の教育水準の維持向上の観点から、市立小中学校児童生徒の学力を把握・分析し、学習指導の成果と課題を検証し、その改善を図る。				
内容	調査実施に向けた問題作成委員会を組織し、問題を作成・実施する。実施後は学力を把握・分析・課題検証・改善を図る。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	児童・生徒

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	問題作成委員会の実施	下妻市学力調査問題作成委員会を実施した回数	目標	3	3	3	回
		実績	3	3			
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	各学校長の事業に対する評価	学校教育への効果をA(4点), B(3点), C(2点), D(1点)の4段階で評価したときの平均点	目標	4.0	4.0	4.0	点
		実績	4.0	3.2			
予算科目	区分	款	項	目			
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額		
総事業費	1,520	1,520	1,520	1,520	1,520		
事業経費	0	0	0	0	0		
特定財源	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	1,520	1,520	1,520	1,520	1,520		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	市立小中学校の教育水準の維持向上は今後も必要性が高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市が推進すべき事業である
	有効性	指標の実績	達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	予算を持っていない
総合評価	費用対効果	効果あり	予算を持っていない	
	手段の妥当性	妥当	妥当	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	市学力調査問題作成を通して、教職員が本市各小中学校の学力の課題を適切に捉え、主体的に一層の授業改善が図られるようにする必要がある。
今後の取組み	全国学力・学習状況調査及び市調査の結果を分析し、本市の明らかになった課題に対して、学習改善を図る必要がある。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						特別支援教育に関すること						教育部	
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育					指導課	
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに									指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	教育支援委員会を通して、特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒を適切な教育的支援につなげる。				
内容	2年に一度、下妻市教育支援委員を組織し、教育支援委員会を実施。特別な教育的支援を必要とする幼児、児童、生徒に対して早期からの一貫した教育支援を行うため対象児の状況について十分な把握を行うとともに慎重な審議を行う。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	児童生徒

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
		教育支援委員会の実施	教育措置について判断する教育支援委員会の実施回数	目標	4	4	4
			実績	4	4		
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	各学校長の事業に対する対価	学校教育への効果をA(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)の4段階で評価したときの平均点	目標	4.0	4.0	4.0	点
			実績	3.8	3.8		
予算科目	区分	款	項	目			
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額		
総事業費	1,520	1,520	1,520	1,520	1,520		
事業経費	0	0	0	0	0		
特定財源	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	1,520	1,520	1,520	1,520	1,520		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	教育支援委員会は今後も必要性が高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市が推進すべき事業である
	有効性	指標の実績	達成できた	予定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	予算を持っていない
総合評価	費用対効果	効果あり		予算を持っていない
	手段の妥当性	妥当		妥当
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	教育支援委員会は、教育支援委員が一堂に会し、特別な教育的支援を必要とする幼児・児童・生徒に関する情報交換ができる貴重な場となっている。
今後の取組み	下妻市教育支援委員会は教育措置について判断する場である。就学に関して客観的な資料の収集に努め、対象児の状況について十分な把握が必要なことと、保護者との丁寧な関りが大切になってくるため、慎重に行わなければならない。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						教師力向上のための研修						教育部	
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育					指導課	
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに									指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	授業研究及び研修会を通して、実践的指導力の向上を図る。同世代の教員が研修会を通して切磋琢磨し、相互交流の場とする。				
内容	授業研究及び研修会を通して、実践的指導力の向上を図ったり、同世代の教員が研修会を通して切磋琢磨し、相互交流の場とする。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	教員

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
				目標	25	25	
実績	22	22					
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
				目標	4.0	4.0	
実績	4.0	4.0					
予算科目	区分	款	項	目			
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額		
総事業費	2,128	2,660	2,660	2,660	2,660		
事業経費	0	0	0	0	0		
特定財源	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.28	0.35	0.35	0.35	0.35		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	2,128	2,660	2,660	2,660	2,660		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	若手教員の育成は今後も必要性が高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市が推進すべき事業である
	有効性	指標の実績	達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	予算を持っていない
総合評価	費用対効果	効果あり		予算を持っていない
	手段の妥当性	妥当		妥当
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	教員が授業研究及び研修会を通して、実践的指導力の向上を図ることができる貴重な機会となっている。
今後の取組み	ベテラン教員の大量退職の時期が続いており、若手教員・中堅教員の人材育成が急務である。そのためそれぞれのキャリアステージ等にに応じた研修を継続していく必要がある。



令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名	英語教育推進事業					教育部	
総合計画の体系	目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育	
SDGs目標	4	質の高い教育をみんなに					指導課
						指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	グローバル社会に対応した人材の育成を目指す。				
内容	小学生英語キャンプ、中学生英語キャンプ等を実施し、英語力向上を図る。				
種別	自治事務(任意)	主体	直営	対象・受益者	児童生徒

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	中学生英語キャンプ	英国を再現した施設「プリティッシュヒルズ」において研修を実施する	目標	1	1	1	回	
		実績	0	1				
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	
	各中学校長の事業に対する評価	学校教育への効果をA(4点), B(3点), C(2点), D(1点)の4段階で評価したときの平均点	目標	4.0	4.0	4.0	点	
		実績	—	3.7				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額			
総事業費	1,900	3,212	3,666	3,666	3,666			
事業経費	0	1,220	1,674	1,674	1,674			
特定財源	0	0	0	0	0			
従事常勤職員数	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25			
従事非常勤職員数	0.00	0.04	0.04	0.04	0.04			
概算人件費	1,900	1,992	1,992	1,992	1,992			

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	学校で学んだ英語を活用する機会として必要性は高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市主導により目標実現が図られる
	有効性	指標の実績	達成できた	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため達成できず
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	最小限度の費用しかかけていない
総合評価	費用対効果	効果あり	最小の経費で指標の目標を達成できる	
	手段の妥当性	妥当	先進的かつ効率的な手段である	
	事業の方針	継続	現状維持	

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和元年から3年度まで実施見送りとなっていたが、令和4年度に初めの実施となった。達成に向け、当該研修施設における研修の質の高さから当該事業の目的が継続して実施する必要がある。
今後の取組み	「英語教育のまちづくり」推進の中心となる事業の2つであり、授業で身に付けた力を試す機会として非常に有効な機会であるため、事業の縮小は困難である。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						生徒指導に関すること						教育部	
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育				指導課		
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに									指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	学校、家庭、地域、関係諸機関の連携を強化し、市内の生徒指導体制の充実を図るとともに、いじめ問題や児童生徒の問題行動、児童虐待の未然防止と早期解消を図る。						
内容	生徒指導に関わる情報交換と対応策を検討し、小中及び中中、関係諸機関との連携の強化を図る。生徒指導、教育相談に関わる研修会を実施する。問題を抱えている児童、生徒についてのケース会議を開く。						
種別	自治事務(任意)	主体		直営		対象・受益者	児童生徒・保護者・学校等

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	生徒指導ネットワーク会議の実施	生徒指導ネットワーク会議の実施回数	目標	3	4	4	回
		実績	3	4			
成果指標	指標名	説明	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
	各学校長の事業に対する評価	学校教育への効果をA(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)の4段階で評価したときの平均点	目標	4.0	4.0	4.0	点
		実績	4.0	3.7			
予算科目	区分	款	項	目			
事業費(千円)	R3決算額	R4決算額	R5予算額	R6予定額	R7予定額		
総事業費	1,520	1,900	1,900	1,900	1,900		
事業経費	0	0	0	0	0		
特定財源	0	0	0	0	0		
従事常勤職員数	0.20	0.25	0.25	0.25	0.25		
従事非常勤職員数	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
概算人件費	1,520	1,900	1,900	1,900	1,900		

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性	必要性は高い	今後も必要性が高い
		対象の適切性	適切	対象者を変更する余地はない
		主体の妥当性	市が推進すべき	市が推進すべき事業である
	有効性	指標の実績	達成できた	想定通りのサービスを提供できた
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	予算を持っていない
総合評価	費用対効果	効果あり		予算を持っていない
	手段の妥当性	妥当		妥当
	事業の方針	継続		現状維持

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	事業の対象となる家庭や児童生徒が増加傾向にあり、重要な役割を果たしている。
今後の取組み	児童生徒の安全安心な生活のために、関係諸機関と連携することが必須であり、事業の縮小は困難である。

令和5年度 事務事業評価シート(令和4年度実績)

事務事業名						外国人児童生徒の支援事業						教育部	
総合計画の体系		目標	2. 教育、文化	基本	1. 幼児、学校教育	分野	2. 義務教育					指導課	
SDGs目標		4	質の高い教育をみんなに									指導係	

1. 事業の概要(Plan)

目的	日本語指導を必要とする子どもたちが、将来、経済的・社会的に自立し、多国籍化・多言語化した共生社会において、本市と母国の架け橋となるグローバル人材になることができるよう支援する。											
内容	帰国・外国人児童が多く在籍する小学校に外国人児童生徒支援員を配置し、日本語指導を必要とする児童生徒を支援する、											
種別	自治事務(義務あり)		主体			直営			対象・受益者		児童生徒・保護者・学校等	

2. 事業の取組みと費用(Do)

活動指標	指標名		説明			年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
						目標				
						実績				
成果指標	指標名		説明			年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位
						目標				
						実績				
予算科目	区分	一般会計	款	10 教育費	項	1 教育総務費	目	3 教育指導費		
事業費(千円)	R3決算額		R4決算額		R5予算額		R6予定額		R7予定額	
総事業費	2,876		2,876		2,876		2,876		2,876	
事業経費	1,450		1,450		1,450		1,450		1,450	
特定財源	0		0		0		0		0	
従事常勤職員数	0.00		0.00		0.00		0.00		0.00	
従事非常勤職員数	0.62		0.62		0.62		0.62		0.62	
概算人件費	1,426		1,426		1,426		1,426		1,426	

3. 事業の評価、今後の方向性

(1) 事業についての評価(Check)

個別評価	必要性	今後の必要性		
		対象の適切性		
		主体の妥当性	市が推進すべき	市が推進すべき事業である
	有効性	指標の実績		
	効率性	コストの削減	削減の余地なし	現状が最低の経費である
総合評価	費用対効果			
	手段の妥当性		妥当	妥当
	事業の方針			

(2) 事業の方向性(Action)

現状の課題	帰国・外国人児童生徒が増加傾向にあるなか、日本語指導教室の設置、外国人児童生徒支援員の配置は重要な役割を果たしている。
今後の取組み	帰国・外国人児童生徒が増加し、学校の多国籍化・多言語化が進む中、外国人児童生徒支援員の配置は不可欠であり、今後も継続する必要がある。